

2. リーマンショック以降の金融緩和

2.1 世界的な金融緩和

2008

PIGS

1998 2009

29 3 9998 2008

30088 9 P 200 8 200 808



ポイント増加している。その後2009年の6月
にさらに5ポイント程度増加している。全国の
向と同様に増減を繰り返しながら常に高水準を
持しており、2010年の6月には再び上昇してお
、2008年10月と比べると10ポイント高くなって
る。季節的な変動はあるものの、全国と比較すれ
ば2008年9月以降の預金総額は相対的に大きくなっ
ていることがわかる。こうした預金総額の増大が経

動のとなり、的にの増大
の増大に びけ ば ないが、したうに
しもそうなっている ではない。したがって、
預金総額が増大したにもかかわらず、らかの、
に ってその預金が経 をもたらす、には
されていないことになる。そこで、以 ではこの
の の預金が の経 動にもたらした
を する。

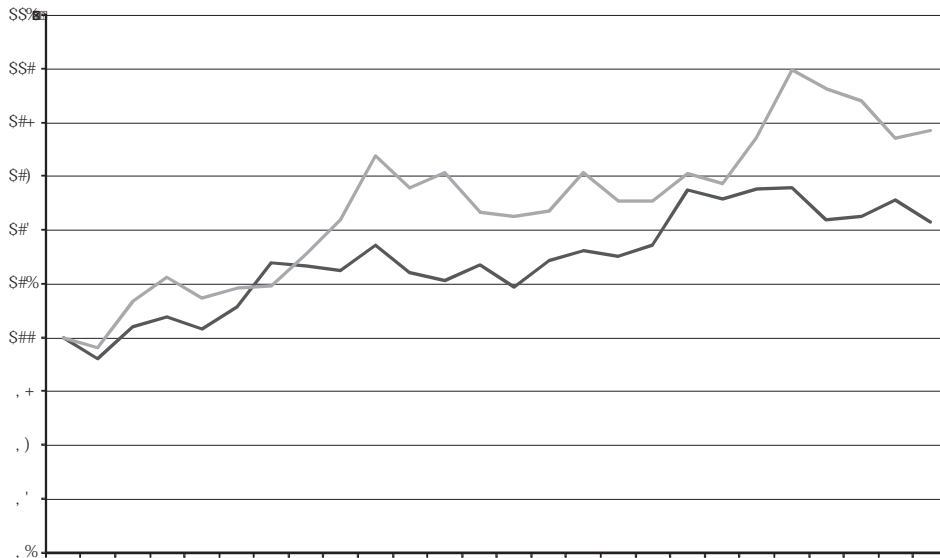


図2 預金残高の増減率の推移

年9月をとする。

預金 金 金 り

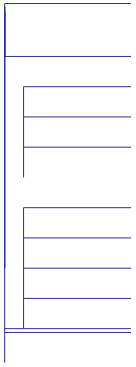
3. 鳥取県における金融機関の収益構造と貸出行動

3.1 収益構造

の金、 を するにあたり、以 で
は、同、 、 金、
金、 金 の5金、 にし っ て
したい²。1、ではこれらの金、 の を
らかにすることで、預金、高の増加という を
する。

ま、金、 の、 に いて、 ていく。、は
5金、 の預、 の である。ま、 で
ある、同、おび、の預、を、と、
ン、以、の2008年 月にはそれれ
65.8、81.4、であった。しかし、その後、とも
預、は、し、2010年 月には62.5、80.3、
となっている。、同、と、はそれれ
ポイント、ポイント以上、していることにな
る。預、が預金、高に、る、高の、であ
ることを、すれば、預金、高が増加しているこの

2 国、ンが、した、に、れば、 が、ン、ンとして、している上、の、上、
5、までに、同、、金、金、金、金、が、ま、れている。この5金、を、
ン、ンとして、した、は、全、の、を、している。同、は、の、上、にもおこなっている。4、上、
額、がない、の、が5金、を、ン、ンとする傾向があるが、年、4、上、額、が、以上の大、の、
ン、ンとして、している金、として5金、が、る、は、である。国、ン、
。この5金、の、同、を、いた、金、は、が、にあり、の、
金、である。同金、は、の、金、である。



も高水準であることがわかる。建設業や不動産業は近年の公共事業の減少や土地価格の下落により、以前と比べると停滞している産業であるといえよう。加えて、地方銀行と同様に信用金庫の地方公共団体に対する貸出比率も増加している。鳥取信用金庫は5.1%から8.1%、倉吉信用金庫は6.8%から10.8%、米子信用金庫は5.8%から6.0%へと、それぞれ3.0ポイント、4.0ポイント、0.2ポイント上昇している。また、表7で、全国の値を見ると、国内の銀行および信用金庫ともに、地方公共団体への貸し付けが増加していることがわかる。

次に、表8で各金融機関の貸出のうち設備資金に

表5 5金融機関の業種別貸出残高の構成比
(2008年3月期) (単位：%)

	山陰 合同銀行	鳥取銀行
製造業	12.1	9.1
農業	0.1	0.1
林業	0.0	0.1
漁業	0.1	0.1
鉱業	0.1	0.0
建設業	4.1	4.0
電気、ガス、熱供給、水道業	1.8	1.2
情報通信業	0.6	0.3
運輸業	2.7	0.6
卸売業、小売業	12.5	9.6
金融・保険業	5.0	7.0
不動産業	9.9	4.1
各種サービス業	15.2	12.4
地方公共団体	11.6	17.2
その他	24.3	34.1
合計	100	100

(単位：%)

	鳥取 信用金庫	倉吉 信用金庫	米子 信用金庫
製造業	6.8	7.1	8.1
農業	0.2	0.4	0.1
林業	0.0	0.0	0.0
漁業	0.3	0.0	0.1
鉱業	0.2	0.2	0.0
建設業	12.8	14.1	8.6
電気、ガス、熱供給、水道業	0.1	0.1	0.0
情報通信業	0.0	0.0	0.3
運輸業	2.0	2.1	2.0
卸売業・小売業	10.5	8.9	12.3
金融・保険業	1.6	4.2	2.5
不動産業	13.4	7.2	15.7
各種サービス業	19.0	15.0	23.0
地方公共団体	5.1	6.8	5.8
個人	28.0	33.8	21.3
合計	100	100	100

出所：各金融機関のディスクロージャー誌より作成

使用された割合を確認しよう。2008年3月期から2010年3月期までの推移を見ると、山陰合同銀行は44.9%、43.9%、42.7%、鳥取銀行は35.1%、32.0%、40.0%、鳥取信用金庫は42.9%、42.3%、41.5%、倉吉信用金庫は38.5%、37.9%、35.0%、米子信用金庫は44.7%、45.2%、45.3%と推移してきている。こうした傾向を見ると、鳥取銀行と米子信用金庫を除いて貸出額が設備資金に使用される割合は減少してきていることが確認できる。この間の景気後退を考えれば運転資金としての融資が増加す

表6 5金融機関の業種別貸出残高の構成比
(2010年3月期) (単位：%)

	山陰 合同銀行	鳥取銀行
製造業	15.0	11.1
農業、林業	0.2	0.2
漁業	0.1	0.1
鉱業、採石業、砂利採取業	0.1	0.0
建設業	4.0	3.2
電気、ガス、熱供給、水道業	1.3	1.9
情報通信業	0.6	0.6
運輸業、郵便業	2.9	2.0
卸売業、小売業	12.4	8.8
金融業、保険業	4.5	5.1
不動産業、物品賃貸業	12.7	15.2
各種サービス業	10.1	9.6
地方公共団体	13.5	20.0
その他	22.7	22.3
合計	100	100

(単位：%)

	鳥取 信用金庫	倉吉 信用金庫	米子 信用金庫
製造業	5.6	7.0	8.5
農業、林業	0.2	0.4	0.1
漁業	0.3	0.0	0.2
鉱業、採石業、砂利採取業	0.1	0.2	0.1
建設業	12.6	12.3	9.2
電気、ガス、熱供給、水道業	0.0	0.1	0.0
情報通信業	0.0	0.0	0.2
運輸業、郵便業	1.7	2.1	2.1
卸売業、小売業	9.1	8.4	12.5
金融業、保険業	1.6	3.8	2.1
不動産業	12.8	8.1	17.8
物品賃貸業	0.9	0.1	0.2
術研・術サービス業	0.1	0.5	0.6
業	4.0	1.1	6.9
業	1.8	1.8	2.8
サービス業、業	5.2	1.7	3.0
業	0.8	0.7	1.3
業	2.5	3.2	2.6
その他サービス業	6.0	5.4	3.8
地方公共団体	8.1	10.8	6.0
個人	26.7	32.3	20.0
合計	100	100	100

出所：各金融機関のディスクロージャー誌より作成



